

# チェルノブイリ通信

<http://www.cher9.org/>

NPO法人  
チェルノブイリ医療支援ネットワーク  
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-5-11-5F  
TEL/FAX: 092-260-3989  
E-mail: jimmu@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク (CMN) は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.  
**114**

## 特集 原発事故後を生きる家族の不安と苦悩

CONTENTS 希望のある未来に向かって～早期発見・治療につながる検査の重要性～ / 汚染地域で暮らす住民へのインタビュー / 古本募金しゃぼん・ご協力のお礼 / 福島訪問レポート / コラム ベラルーシの一日 / 2019年度総会報告 / 開催予告: ベラルーシの医療専門家による来日講演会 / 支援者のお名前とメッセージ



東日本大震災から8年。福島県浜通り北部にある双葉郡浪江町の帰還困難区域

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？  
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座	01770-1-65328
	他の金融機関からは 一七九支店 (当) 65328
楽天銀行	ジャス支店 (支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行	法人第一支店 (支店番号106) (普) 1030416
※口座名はいずれも「NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク」	

特別寄稿

# 希望のある未来に向かって

## 早期発見・治療につながる検査の重要性

未曾有の被害をもたらした東日本大震災から8年。汚染された被災地で、或いは故郷を離れた地で、原発事故後の現実と向き合って生活を営む方々の心境はどんなものでしょうか。

今号では、獨協医科大学の木村真三先生のご協力のもとにお寄せいただいたAさん(福島県伊達市在住)による手記を紹介させていただきます。

### エコー検査で見つかった、甲状腺の異変

2018年2月、18歳の娘の進学も決まったので、時間のあるうちに甲状腺エコー検査を受けておこうと、郡山の病院で個別に受けました。

エコー画像には少し形のいびつな丸い黒い画像が写っていました。先生が黒い画像が写っていますが、口内炎などが出来ていると写ることもありますが、との事でした。ちょうど娘は大きな口内炎が出来て痛い、と話していたのでそれが画像に写ったのだと安心して帰途

につきました。念のため3ヶ月後にまた見せてください、との事でした。

結局、半年後の8月にエコー検査を受けました。「前回のこの黒い部分が一回り大きくなっているので、念の為甲状腺の専門の先生に診てもらったほうがいいでしょう」と、先生から説明がありました。えっ？大きく？専門の先生に診てもらって、娘が甲状腺がんかもしれないという事？どうしよう…そんなことを考えていると、足ががたがた震えてきました。県の検査とは別に受けたので、



手記をお寄せいただいたAさんの娘さん

先生が「県の検査として受けた方が後々何かあった時に、医療費の関係もあるのでもいいでしょう」とおっしゃいました。そこで県の検査としてもう一度9月に受けることになりました。

検査前に獨協医科大学の木村真三先生の勉強会があったので、娘のエコー画像を先生に見て頂こうと持っていきました。この画像を見てもらえれば、「心配ありません」と言ってもらえるかもしれない、と思っていました。エコー画像を見ると先生が、「これは非常に気持ちが悪い」と言いました。木村先生はエコー画像も見慣れているため、その場で甲状腺がんかもしれない、と思ったそうです。私も心配していただけに、本当に甲状腺がんかもしれない…まさか、でも確定ではないし、とりあ

えず次の県の検査を受けて結果を待つしかない、と思いました。

### アルツル医師による所見

後日姉から連絡があり、ベラルーシに行かれている木村先生から、娘のエコー画像を現地の先生に見てもらおうので、送って欲しいとの連絡がありました。娘のことを気にかけてくれていた事が嬉しかったです。先生に画像を送り、25万例を検診してこられた先生の回答を待ちました。

ほどなく先生から連絡が入りました。ベラルーシの先生の回答は、甲状腺がんの疑いが高い、すぐに細胞診を受けたほうが良いとのことでした。私はショックで部屋にこもり、一人であなだれていました。主人も帰ってきたので、その話を伝えました。主人は「まだ検査し

てないから、わからないだろう」と、言いました。確かにそうだと自分に言い聞かせました。でもやはり25万例を検診している先生が見ての回答なので、ほぼ間違いない、娘が甲状腺がん…いやだ絶対いやだ、と思いました。

### 何をすれば良かったのか 何が原因だったのか

震災後いろいろ調べて、私なりに子ども達の生活には気を使ってきたつもりでした。震災後は地元の野菜も食べさせませんでしたし、

牛乳も北海道産しか飲ませませんでした。なるべく外に出ないようにもしてきました。私なりに気をつけて生活させてきたのに、なんの意味もなかった、全部無駄だった。あの時買物に連れて行かなければ、主人が換気扇を回してヨウ素を部屋に取り込まなければ…。何が原因で娘がそうなったのかを考えていました。



Aさんご家族の直面する不安や苦悩に対し、真摯に取り組む木村先生(上)の計らいで、昨年秋のベラルーシ訪問中にアルツル医師にエコー画像をみてもらった(下)

娘が甲状腺がんかもしれない？  
足が、がたがた震えてきました

# 検査結果を待つ方、手術を受ける方…、 本人や家族の辛い思いが痛いほどわかりました

## 安定ヨード剤の配布

以前読んだ記事に、チェルノブイリで事故にあった時、ポーランドではヨウ素を配布したので、小児甲状腺がんが発症していないと書いてありました。(※1)

どうして事故があった時に、全員にヨウ素を飲ませなかったのか、と思いました。そうすれば娘が甲状腺がんになることもなかったかもしれない。それが本当なら震災時の県のトップの判断が、その後の私達の人生を左右する大変な事になってしまおうと思いません。情報も流れないどころか、ヨウ素の配布もなかったのです。それぞれの市町村までは配布されていたようだ、と後になって聞きました。近くまでできていたのに、配布されずに終わり、それが原因で福島での甲状腺がんが増えているの

なら、許せないと思いました。

## 検査結果を待つ不安な日々

今となつては、過去のことを悔やんでも仕方ないことだとはわかっていきます。でも娘がこんな状況にならなかつたら、そんな事も考えずに生活していたと思います。

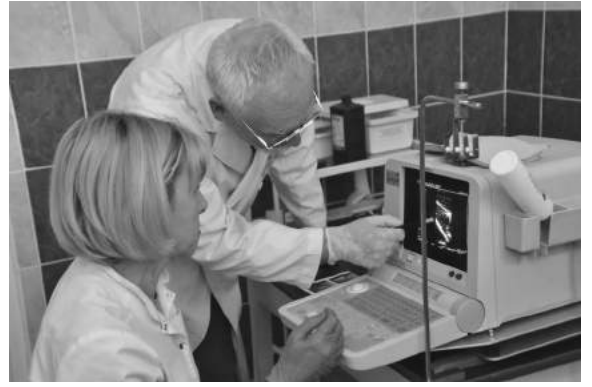
甲状腺がんで手術した方、これから手術を受ける方、検査結果待ちの方。それぞれの家族や本人がどんな思いで時間を過ごしているか、痛いほどわかりました。皆こんな辛い思いをしていたんだ、そう思いました。早く無事に手術が終わり、術後転移もなく、傷跡も残らず、早く普通の生活に戻り幸せになりますように…そんなことばかり考えていました。

アレーシャさん(写真女性)は2006年の検査で甲状腺にがんが見つかり、翌年に日本で手術を受けた。その後、結婚、出産を経験し、今も幸せに暮らしている  
(上) 執刀医の清水一雄先生との再会。2015年、プレスト市にて  
(下) 2018年、プレスト州ビンスク市の自宅にて



## 甲状腺がんの早期発見後、手術を受けた女性の笑顔

そして今後の手術のことや、手術後の娘の将来のことを考えると夜も眠れないこともありました。今の不安な気持ちを木村先生に伝えました。先生はベラルーシにて、お忙しかったと思います。それでも先生は、がんはまだ小さいので早く対応すれば結婚も出産も問題ありません、と連絡をくれました。ちょうど甲状腺がんの手術をされた方へ、お話を聞いてこられたとの事でした。その方は甲状腺がんの手術をされ、その後結婚し子どもを出産したそうです。幸せそうな、笑顔の女性の写真を送って頂きました。娘もこうなれる、大丈夫と自分に言い聞かせていました。木村先生とのやりとりが私にとって、本当に前向きな気持ちに



ブレスト州ストーリーリン地区での住民に対する甲状腺検査。問診、触診、エコー検査、穿刺吸引細胞診と、過去に日本の専門医から学んだ技術を発揮し、甲状腺疾患の早期発見・治療に重要な役割を果たしている

医療の知識があり、信頼できる方の存在は、とても大切なことだと思います

させてくれました。ベラルーシから、どうか何事もなく無事に帰って来てください、と祈っていました。先生との接点がなければ、私は闇雲に悪い想像と暗い未来ばかりを想像していましたから。

世の中には、もっと大変な思いをしている人たちがいるのに、こんなふうには落ち込んでばかりいてはしょうがない、そう思うようになりました。そして先生からの言葉を何度も読み返し自分を安心させました。医療の知識があり、信頼できる方の存在というのは、とても大切な事だと思いました。前向きに冷静に考えることが出来るようになるからです。

### 獨協医科大学での細胞診

9月に県の検査を受けましたが、県からの検査結果は2〜3ヶ月位かかるとの事でした。

黒いびつな丸い部分が少し大きくなっていったようでした。私は県の結果を待つ間にどんどん大きくなり転移してしまったらどうしよう、また不安でいっぱいになりました。主人とも相談し、娘にはまだ伝えない方がいい、という事になりました。結果もでていないのに、心配させても身体にも悪いと思ったからです。できるだけ普段通りの、笑っている生活を心がけました。

でも木村先生には、私の不安な気持ちを伝えました。検査結果を待ついても大丈夫なのかどうかを知りたいと思ったからです。後日先生から、獨協医科大学病院で検査を受けて診てもらいましょうと、連絡を頂きました。検査が受けられる、良かった、と携帯電話を握り締めていました。検査を受ければ手術になるとして

## 手術を怖がる娘の気持ちを思うと切なくなり、手術するのが私だったらしいのに、と涙が出ました

も、今以上に悪くなることはないし、早く普段の生活にも戻れる、と思いました。先生の話されていた早期発見、早期治療ができると思うと不安な気持ちの中にも前に進んでいるという安心感がありました。

後日、大病院で細胞診を受けました。担当の先生はエコー画像を見ながら、その患部の細胞が取れましたよ、と話されました。良かったちゃんを取れたんだ、とほっとしました。細胞診を受けた娘は針を刺したので少し怖かったようでした。そして検査結果は、三週間後との事でした。

### 小さな傷跡しか残さない ベラルーシの医療技術

娘にもこの結果が甲状腺がんなら、手術になるからね、と話しま

した。娘は「え？手術？いやだ、怖い」と言いました。娘の気持ちを思うと切なくなりました。

木村先生に手術になるとしたら、どのあたりを切るのですかと聞きました。「U字に切開します」と話されました。そんなに切らなくてはいけないの？とショックでしたが、娘の今後の生活を考えたらそんな事も言っていられない、と自分に言い聞かせました。

娘はちょうどおしゃれが楽しい時期でした。専門学校に通うようになり、私服ということもあり毎朝、何を着て行くかと楽しそうでした。首にU字に手術をしたら、毎朝娘はその傷跡を見て落ち込むようになる、と悲しくなりました。手術するのが私だったらしいのに、と涙がでました。主人も現実を受け入れるしかないと思ってい



昨年秋のベラルーシ訪問中、インタビューに応じてくれたイリーナさん（下写真・左）は、甲状腺摘出手術を経験。首元の手術痕（上写真）は、よく見ないとわからない

たそうです。

ベラルーシでは、傷の小さな手術の技術を習得し、傷跡も本当に小さいもので済むそうです。どうして、医療が発達している日本でもその技術が使えないのか不思議になりました。その技術を学んでくれる方がいれば娘も、そしてこれから手術をする人もどんなにか精神的に救われるかと思いました。（※2）

### 検査結果は「良性」

#### 今後経過観察が必要

いよいよ、娘の検査結果が出る日、この日は手術の日程を決め、私も主人も会社を休みをとらないと、と考えていました。

木村先生も朝からお忙しかったにもかかわらず、来てくださいました。検査結果は予想外の良性的でした。今日は手術の日程を決めることになると思っていたので、その結果に驚き、喜びました。

でも、これからは経過観察ということなので安心ではありません。来年3月にまた、検査を受けます。そしてこれからもずっと、検査は受け続けたいといけない、と娘にも話しました。

### 後悔しないために、 これからも定期的に検査を

福島の方はこれからも、きちんと検査を受けるべきだと思います。もう検査は必要ないんじゃない？という人も増えていきます。一度受けて大丈夫だったから、そのあと受けていないという人もいました。健康診断と同じく受けなくてはいけないものと、皆さんに思ってもらっていました。早期発見、早期治療が本当に大事で、結果が良ければまた安心して生活

できるのですから。

あの時検査していれば…にならないうちに、これからも検査を受け安心できる生活を送りたいと思います。そして、子どもたちにも伝えていきたいと思っています。

最後にチエルノブイリ医療支援ネットワークの方々に、感謝の気持ちを伝えたいです。これからもチエルノブイリで被災した方々と、日本との大事な架橋となってくださいますようお願いいたします。そして私たちも協力させていただきますと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## 福島の方は、今後も甲状腺の検査を

## 継続的に受けるべきだと思います

(※1)ヨウ素(ヨード)と甲状腺の関係について

# 甲

甲状腺ではヨウ素(ワカメや昆布に多く含まれる)を材料として甲状腺ホルモンを作り出しています。この甲状腺ホルモンは体の発育や成長、新陳代謝などに欠かせない働きをしています。成長期にある子どもたちの甲状腺は、特にヨウ素を吸収しやすいと言われています。チエルノブイリ原発事故により、放射性ヨウ素(ヨウ素131)が大気中へ放出されました。そのときに子どもたちの甲状腺にこの放射性ヨウ素が取り込まれ、やがて甲状腺の異常が多発するようになりました。

(※2)日本での甲状腺手術について、獨協医科大学の木村先生より、次の解説をいただきました。

# 福

島県立医科大学甲状腺外科の鈴木眞一教授から、県立医大でも傷がわからないような形成外科の手術もやっているという写真を見せていただきました。ベラルーシを超える綺麗な手術痕でした。正直驚きました。

ただし、県では1センチを超えない悪性腫瘍は手術しないことになっています。ベラルーシでは早めに手術することで、リンパ節への転移のリスクを軽減しています。もし悪性腫瘍がリンパ節へ転じていたら、メスで切る範囲は大きくなります。こうした弊害が少ないのがベラルーシでしょう。

# 甲状腺疾患の早期発見・治療を実現する ベラルーシの医療制度について

獨協医科大学国際疫学研究室福島分室  
室長 木村 真三



プレスト州ストーリン地区での甲状腺検診

昨年のベラルーシ訪問では、プレスト州プレスト市及びストーリン地区にて、甲状腺の手術を受けた住民の方々へのインタビューを行いました。そのときの様子について、獨協医科大学の木村先生にまとめていただきました。

## プレスト州での甲状腺がん 術後インタビュー

昨年9月、チェルノブイリ医療支援ネットワークさんの計らいでベラルーシ共和国プレスト州を訪れました。これまでにも何度も現地を訪問していますが、今回は事故当時、同州内でも最も汚染の強かったストーリン地区を訪れることができました。また、州都プレスト市と高濃度汚染地域であるストーリン地区で、甲状腺がん術後インタビューを行うことができたので、その報告をいたします。

プレスト市では4人の方、ストーリン地区では7人の方にインタビューを行いました。多くの方は、定期検診や通常の健康診断、妊娠時の健康診断で発見されたケースがほとんどでした。とりわけ、検査を受ける習慣が定着しているため早期発見が行われている感じがしました。その結果、術

前に抱いていた不安は、適切な処置のおかげで綺麗に払拭されております。例外として術後に不安を抱えている方は、プレスト市でインタビューを行った34歳の男性のみでした。

## 精神的苦痛を和らげる 形成外科的手術

今回のインタビューでは1998年以降に手術を受けた方々でしたが、この当時には形成外科的手術を取り入れており手術痕も小さく、よく見ないとわからないくらいの傷でした。このことは女性患者の精神的苦痛を和らげていると思われま

## チェルノブイリと福島の 医学的処置の違い

ベラルーシでは甲状腺がんが見つかった場合、5ミリの大きさでも手術を行います。福島の場合、原則的に





ストーリン地区での甲状腺検診を受けた  
アンドレイさん（左端）とその家族



イリーナさん



オリガさん

10ミリに達しなければ手術を行わないことになっております。これは、原発事故由来と確定していない現在、通常の甲状腺がんは成長速度がゆっくりであり、必ずしも治療の必要がないがんを見つける「過剰診断」の可能性が指摘されているため、と言われます。結論が出ない状況で、一刻も早く手術を行うべきとの意見もあり、意見が分かれているのが現状です。

そうした中ベラルーシでは、がんの進行をできるだけ抑えるための処置として手術を行います。こうした違いがチェルノブイリと福島の甲状腺がんの

ご支援・ご協力を  
ありがとうございます！

## 古本募金 きしゃぽん

2019年1月～2月までの募金額

**250,441円**

※貴金属・ブランド品は  
壊れていても構いません



医学的処置に関わってくるのです。福島の甲状腺がんの原因が明らかとなっていない状況では、これからもベラルーシに学びんでいく必要があると痛感しております。

もちろん、それは、甲状腺がんの移動検診制度も同様です。



読み終えた本やCD、DVDなどで募金ができる「古本募金きしゃぽん」を通じて、たくさんの募金をお寄せいただいております。

誠にありがとうございます！

引き続きどうぞよろしく願いいたします！

お申込み・お問い合わせ

■電話受付（9～18時・365日）

フリーダイヤル **0120-29-7000**

■Web受付（24時間・365日）

[www.kishapon.com/chernobyl/](http://www.kishapon.com/chernobyl/)

「チェルノブイリ医療支援ネットワークへの寄付」とお伝えください。

# 東日本大震災から8年、福島の今

チェルノブイリ医療支援ネットワーク 寺嶋可南子

3月9日(土)から11日(月)まで、震災から8年目を迎える福島を訪問しました。

3月9日は郡山での講演会に出席し、10日は獨協医科大学国際疫学研究室 木村真三先生の案内で被災地を視察しました。

帰還困難区域となり人がいなくなった町には草が生い茂り、鳥の声が聞こえるのみで、とても静かでした。

一方で、避難が解除されても住民の帰還は進まず、地震で崩れた住宅もそのまま…

被災地の今を目の当たりにし、フクシマはまだ終わっていないと改めて強く思いました。

9日は認定NPO法人ふくしま30年プロジェクト主催の「『いまさらきけない』ホウシャノウの話」という講演会に参加しました。  
講演会での獨協医科大学国際疫学研究室 木村真三准教授のお話の概要(一部)を紹介します。

放射能は私たちが生きていく間ずっと気にしなければなりません

事故により放出された放射性物質が放出する放射線はそれぞれ固有のスピードで減っていきま  
す。ですが今、放射能が減るスピードが本来よりも緩やかになっていることが明らかになっています。

これは植物の葉に含まれる放射性物質が落葉と共に土へ移り、植物が根から水や養分を吸収する際に再び植物へと戻り、また落葉と共に土へ移る…という循環の中で放射性物質の濃縮(生体濃縮)が起きているためと考えられています。

現在、もつとも放射能が減るスピードが遅いセシウム137はこの8年で1割ほどしか減っていません。このことを考えると、これから先ずっと放射能を気にしながら生活していく必要があります。

原子力発電所の事故がもし再び起こってしまったら、どのように対処すればいいのでしょうか。

まずは風向きや線量の予測などの情報を得る

ことが重要です。お風呂に水をためて、生活にはこの水を用いるようにします。この水で体を拭き、水道水は使わないようにします。換気扇を止め、窓を目張りして外気が入らないようにすることも重要です。車も内循環にしましょう。

また、震災時にはガンリンが手に入らないというところもありましたので、ガンリンを満タンの状態に維持することもお勧めします。



講演会の様子

用意された座席の大部分が埋まっている、福島の方々の関心の高さがうかがえます

### 浪江町 帰還困難区域



▲以前は田畑だった場所には柳やススキが生い茂っています。再びこの地で作物を育てることができる日は来るのでしょうか…

通行可能となった114号線、6号線を通り、浪江町から富岡町にかけて現地の様子を視察しました。その様子の一部を紹介します。



▲帰還困難区域で通行可能なのは114号線のみで、わき道へ続く道路はバリケードで封鎖され、厳しく監視されています。道路わきの民家も封鎖されています。

### 浪江町 避難解除地区



▲避難解除地区のいたるところにモニタリングポストがあります。震災から復興も不完全で、この神社は傾き、鳥居も崩れ落ちたまま放置されていました。帰還した人も少なく、人の姿はほとんどありません。

### 福島第一原子力発電所



▲写真の奥にわずかに見えるのが福島第一原子力発電所です。手前には除染された汚染土が入った袋が積みまっています。1袋には1m<sup>2</sup>分の土しか入りません。

### 富岡町 帰還困難区域/避難解除地区



◀ 写真の右側は避難解除地区、左側は帰還困難区域です。放射線量を測定すると、道路の両側でそれぞれ0.55マイクロシーベルト、0.68マイクロシーベルトとそれほど大きくは違いませんでした。道路の向こう側が帰還困難区域と分かっていると、安心して家に帰ることができるのでしょうか…

12月だより

## ミンスクのクリスマス行事

### 冬のベラルーシより



(上)マリヤ・ラシツケネ選手(ロシア)の競技後のあいさつ(下)広場での生演劇

こんにちは！2019年を迎えるミンスクからクリスマスレポートです。ベラルーシでは正月をはさんでクリスマスが二回祝われます(カトリックの12月25日とロシア正教の1月7日)。12月も終盤に差し掛かる頃、町ではクリスマス・新年に向けた様々な催しが行われています。その中でも、日本では見られないようなイベントをお伝えしましょう！

2018年12月22日、文字通り「特別な陸上競技ショー」がミンスク中心にあるショッピングモール「スタリツア」で開催されました。これは、今年で四回目となるベラルーシ陸上競技連盟主催の走り高跳び国際大会でもあります。大会には国内外の走り高跳びの選手が参加し、集まった大勢のファンや買い物客の前で競い合います。司会者のマイクパフォーマンス、チャダンサー達によるダンスパフォーマンスなど、普段の陸上競技会とは異なる雰囲気豊かな観客と選手は盛り上がりつきます。フィギアスケートに例えるなら、試合後の「エキシビション」で選

手達がファンサービスの演技をしている様子でしょうか。

この走り高跳びの大会には主に東欧圏の有名な選手が参加し、オリンピックや世界大会で出るような記録も見られます。男女の部門でそれぞれ優勝したのは、2メートル30センチを記録した地元ベラルーシのマキシム・ニダセコフ選手と2メートルを跳んだロシアのマリヤ・ラシツケネ選手です。ニダセコフ選手は2018年の男子走り高跳びヨーロッパ選手権で銀メダルを獲得した将来が楽しみな若手、ラシツケネ選手は世界陸上2連覇中(2015北京、2017ロンドン)の女子走り高跳び界のスーパースターです。このような豪華な顔ぶれによる跳躍の競演を見られる機会は貴重で、ショッピングモールを訪れた人へ夢あふれるクリスマスプレゼントとなつています。

この《クリスマスのスタート》と題されたスポーツエキシビションが始まる12月から1月にかけての催しの数々、目抜き通りをゆくサンタと

雪娘の大道進や広場での生演劇などベラルーシならではのお祭り行事がこれからも盛りだくさんです。

ミンスクの中心地で新年をカウントダウンするイベントもあります。が、地元では家族で食卓についてテレビを見ながら時計の針が0時を指すのを待つてお祝いをする人が多いようです。その後、夜中の町で行われているイベント・コンサート会場へ出かけ、音楽にのって踊ったり雪のなか打ち上げられる花火を觀賞して楽しめます。このように、笑顔で誰かと一緒に楽しい時を過ごすのがベラルーシ伝統の新年とクリスマスの違い方となっているのではないのでしょうか。



インタビュアーに応じてくれたエレナ先生

1月だより

## 哲学者が経験した、チェルノブイリ

こんにちは！真冬のミンスクから今回お届けするのは、長年ベラルーシ国立大学で哲学を教えるエレナ・ドトウコ助教授が語ったチェルノブイリの経験です。

事故当時の1986年も哲学の先生として働いていた彼女はレーニングラード(現サンクトペテルブルグ)出身です。ミンスクへ家族で引っ越してきたのが1957年。事故当時のことを振り返ると緊張した表情になります。「事故が起きた朝、私達のもとには詳しい情報がまだ届いていませんでした。住民の間ではうわさが飛び交っていました。彼らが爆発事故のことを知ったのは確か西側の放送、ポーランドのラジオニュースでした。事故が起こった事実にも驚きましたが、何よりも怖かったのは情報の欠如でした。当初、放射能被害の対策としてヨードをと

らなければいけませんでした。」  
事故後も物理学者達と放射能の危険度について議論していたエレナさんは興味深いことを知ります。

「事故直後、住民達は放射能を避けるため直感的に太陽の光を浴びないようにしていました。紫外線を避けなければならぬという習慣は私のもとにも残っています。医師達が伝える情報では、余分な紫外線を肌に浴びるのは健康に必ずしも良くなく、太陽の下では服を着る必要があります。個人的にもそれはずっと守っているし、家族にも日光浴で強い紫外線を浴びる流行を追いかけないように諭しています。」

自分の周りで起こった被害については「甲状腺の問題が多発すると、住民の間で予防策が施されまし

た。親戚の中に甲状腺肥大が認められた者はいませんでした。私の母がかかっていた若い30代の医者がいきましたが、事故発生から二年ほど経った日に彼は亡くなってしまいました。母に聞くと、彼は事故直後に日光浴をしていたそうです。チェルノブイリ事故直後は快晴の日が続き、五月の連休になると多くのベラルーシ人が日光浴に出かけていました。放射能の被害が大きかったゴメリ州には親戚がいましたが、できるだけ近づかないように気をつけていました。親戚は、多くの知り合い、それも女性が亡くなっていくのを目の当たりにしました。」と思い出していました。

「こういった事故は二度と起こらないというのが一番の願いです。もし、原子力発電所を創設するのであれば、それは絶対に安全なものでなければいけません。」  
インタビュアーの終わりに力強くこう言うと、エレナさんは笑顔になり写真撮影に応じてくれました。

2019年度

# 通常総会報告

# 2

月16日(土)、福岡市国際会館・大会議室にて、2019年度通常総会を開催し、昨年度の事業報告・活動決算報告および、今年度の事業計画・活動予算についての協議、承認が行われました。前年度の事業報告および今年度の事業計画について簡単に紹介させていただきます。

## 2018年度事業報告

## 2019年度事業計画

一 チェルノブイリ原発事故の被災者及び被災地に対する支援事業

### ■ベラルーシ訪問事業

- ◎期間：二〇一八年九月九日(日)～九月二三日(日)
- ◎訪問先：ミンスク10番病院、ブレスト州立内分秘診療所、ブレスト州ストーリーン地区ストウロガ村外来診療所、他
- ◎参加者：河上雅夫(理事)、川原秀之(理事・事務局長)、山田英雄(医療顧問)、木村真三(獨協医科大学)、田中仁(通訳)

■被災者と障がい者による福祉工房「のぞみ21」支援事業

- ◎活動支援、木工品やリネン製品の仕入、日本国内での販売

二 日本国内での原子力災害などによる被災者及び被災地に対する支援事業

### ■東日本大震災の被災地訪問調査

- ◎訪問先：認定NPO法人ふくしま30年プロジェクト、二本松市放射線被ばく測定センター、二本松市立小浜小学校6年生出前授業、獨協医科大学国際疫学研究室福島分室

■日本衛生学会学術会議・市民国際講座参加

- ◎開催日：二〇一八年三月二四日
- ◎参加者：河上雅夫(理事)

三 被災者及び被災地の現状を周知するための普及啓発事業

■「チェルノブイリ通信」発行事業(年四回発行)

- ◎発行時期：四、七、十一、十二月

◎発行部数：二七五〇～二〇五〇部

### ■イベント企画・運営事業

《リウドミラ・ウクラインカ来日講演会&コンサート》

- ◎実施期間：二〇一八年五月十三日～十九日
- ◎開催地域：福島、東京、広島、福岡

《渡會泰彦臨床検査技師による活動報告会》

- ◎月日：二〇一八年八月二十五日
- ◎場所：九州ビル5F・大会議室(福岡市博多区)
- ◎共催：グリーンコープ共同体

### ■その他の情報発信事業

- ◎団体ウェブサイトの運営、情報発信、イベント等での活動紹介

## 四 フェアトレード事業

### ■物品販売事業

- ◎チェルノブイリ支援コーヒー、紅茶の販売

## 2019年度役員体制

理事：寺嶋可南子、和田幸策、河上雅夫、中山悠

川原秀之、小川峰湖

監事：三島さとこ

2019年度も、引き続き専門家との連携のもと、ベラルーシ共和国での医療活動、被災者支援活動を継続してまいります。また福島及び周辺地域での甲状腺検査のサポートを行います。必要に応じて現地を訪問し、情報収集と発信に努めます。また活動報告を充実させ、会員の皆さまや広く一般に向けて、国内外での活動、被災地の様子について伝えます。大きな事業の一つとして、ベラルーシの医療専門家による来日講演会を福島で実施します。

今後も被災地から必要とされる支援活動を展開し、会員の皆さまやご支援くださる皆さまへの説明責任を果たし、現地の様子と事業の成果をお伝えできるよう、スタッフ一同頑張つてまいります。

2018年度活動決算書(2018/1/1~12/31)及び2019年度活動予算書(2019/1/1~12/31)

(単位：円)

科目	2018年度決算		2019年度予算	
経常収益				
1. 受取会費	60,000	60,000	60,000	60,000
2. 受取寄付金				
活動支援金	7,690,203		7,500,000	
のぞみ21カンパ	50,670		40,000	
雪だるま3号カンパ	36,000		14,000	
震災支援カンパ	257,009	8,033,882	1,500,000	9,180,000
3. 事業収益				
のぞみ21支援事業	40,900		50,000	
イベント企画・運営事業	97,271			
フェアトレード事業	613,144	751,315	600,000	650,000
4. その他収益	284	284	10,000	10,000
経常収益計		8,845,481		9,900,000
経常費用				
1. 事業費(※2)				
訪ベラ事業	3,452,781		8,517,600	
のぞみ21支援事業	798,607		145,545	
震災支援事業	304,467		409,090	
会報発行事業	2,105,230		2,067,476	
イベント企画・運営事業	1,890,813		1,732,210	
その他の情報提供事業	10,223		22,352	
フェアトレード事業	564,589	9,126,710	553,635	13,447,908
2. 管理費				
人件費	6,827		7,481	
その他経費	45,211	52,038	73,611	81,092
経常費用計		9,178,748		13,529,000
当期経常増減額		-333,267		-3,629,000
税引前当期正味財産増減額		-333,267		-3,629,000
法人税、住民税及び事業税		71,000		71,000
当期正味財産増減額		-404,267		200,000
前期繰越正味財産額		23,501,398		23,097,131
次期繰越正味財産額		23,097,131		19,397,131

※2) 人件費(給料手当、雑給、法定福利費、支払報酬)を含めた金額です。また水道光熱費や支払地代家賃等の共通経費も按分されています。

開催  
予告

ベラルーシの医療専門家による来日講演会を開催します！

ベラルーシにおける医療支援活動の現地パートナーによる来日講演会を福島県にて開催します。詳細が決まり次第、ウェブサイト等にてお知らせします。

(ゲスト：アルツール医師、バロージャ医師、マキシム医師)

福島市 2019年5月18日(土)

郡山市 2019年5月19日(日)



# たくさんのご支援を ありがとうございます

(順不同・敬称略)

合計	866,181円
＊活動支援金	763,848円
＊のぞみ21カンパ	6,000円
＊雪だるま3号カンパ	0円
＊東日本支援カンパ	52,333円
＊おまかせカンパ	44,000円

(2018年12月～2019年2月分の寄付内訳)

## ●口座受付寄付

相川美智子 伊東和枝 稲毛修子 梶原孝子 グループ・イー  
 トーヴ 財津悠子 佐々木悦子 佐藤和子 佐藤久美 里見  
 照子 渋谷けい子 鈴木妙子 高橋武三 田中京子 田中直  
 子 中島乃婦子 長棟かおる 中村幸枝 西嶋香穂子 野中  
 孝子 引田良子 深田俊江 藤井真弓 宮本美智子 森戸春  
 江 安田恵美子 矢野和代 和田由理 和田茉莉恵

## 「都道府県別」

【福島県】1名 【東京都】2名 【長野県】1名  
 【静岡県】2名 【愛知県】1名 【兵庫県】2名  
 【鳥取県】1名 【島根県】1名 【広島県】1名  
 【山口県】5名 【高知県】1名 【福岡県】37名  
 【佐賀県】1名 【長崎県】2名 【熊本県】4名  
 【大分県】5名 【宮崎県】2名 【鹿児島県】3名  
 計72名(匿名含む)

※振込用紙記入欄に、通信へのお名前掲載をご承諾いただいた方のみ、お名前を掲載させていただきます。

## ●月々の定額寄付(マンスリーサポーターの皆さま)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤セツ子 伊藤利恵  
 稲田照子 井上礼子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延  
 壽富美 大塚卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太  
 田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼  
 子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美  
 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤  
 宇企子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子  
 坂口馨子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐  
 藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹  
 田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利  
 子・朱加 網脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永  
 尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子  
 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤本  
 孝子 湊田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸  
 子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由  
 紀 村松知子 室屋芳乃 矢野和代 山下澄子 山中陽子  
 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子 渡邊真志子

計120名(匿名含む)

貴重なご寄付をお寄せいただき、どうもありがとうございます。皆さまよりお預かりしたご寄付は、チェルノブイリ被災者医療支援、福祉工房のぞみ21支援、移動検診車雪だるま3号購入の積立、東日本震災被災者支援、事務費用等にあってさせていただきます。

## 編集後記

今号10～11ページで報告した福島訪問と合わせ、埼玉県入間市の古本募金きしゃぼん(嵯峨野株式会社)を訪ねました。これまでメールや電話でのやりとりしかなかったご担当者の大村さんにお会いできて感激しました。(H・K)

## 皆さまからのメッセージ(二部抜粋)

●通信、毎号、楽しみに待っています。ありがとうございます。●  
 います。皆様の健康を心からお祈りしています。●  
 通信の文章もさることながら写真を楽しみにしています。●  
 ●チェルノブイリの子どもの達のために使ってください。●  
 ●和白干潟を守る会バザーでアピールしながら集めた収益金です。少しですが、役立ててください。●  
 ●少額ですが、お役立下さい。●コーヒーありがとうございます。●  
 ●少しでも力になりますように。●この(古本募金きしゃぼん)一箱で医療支援のお力になりますように。●救われる命を助けて下さい。●役に立ちますように！よろしく願います。

## お知らせとお願い

### 振込

用紙は毎号同封しています。いつでも振り込みできるように、毎号同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要な方は処分をお願いいたします。

### 月々

300円から、手軽にチェルノブイリ支援！  
 ゆうちよ銀行で毎月26日に指定の額の募金を自動引き落とし。マンスリーサポーター募集中です。手続きは簡単。ホームページが事務局まで。

### 住所

を変更された方は、事務局までお知らせください。なお今後の資料送付がご不要の場合は、お手数ですが事務局までその旨ご連絡ください。

活動の様子や通信バックナンバーなどはホームページをチェック!

チェルノブイリ 医療支援

検索

地球にやさしい再生紙と大豆インクを使用しています